

東松島復興推進員だより（第19号）

～地を往きて走らず～

未曾有の大震災から3年が経過しましたが、ここ東松島市では依然として多くの被災者、約1,500世帯、3,500人近くの住民が仮設住宅で不便な暮らしを強いられています。民間アパート等の「みなし仮設」に入居されている方も700世帯以上いらっしゃいます。

しかし一歩一歩ではありますが、住宅の再建が進んでいます。私が駐在する宮戸島では、甚大な津波被害を受けた3つの浜で、それぞれの背後地の高台を造成し宅地として整備して、浜ごとの集団移転をおこなう計画です。いよいよ、今年の6月に宅地造成が完了し、住民が自分の家を建てられるようになります。以前もご紹介しましたが、ここ宮戸島は日本三景 松島の一部「奥松島」と呼ばれる景勝地ゆえに建物に対する規制が厳しく、住宅再建においても景観に配慮した建築（例えば、屋根の形、壁の色、敷地の緑化等）が求められます。震災前までは文化庁が一方的に規制をかけていたような状況だったようですが、今回の住宅再建に於いては、その権限が市に移譲されたことにより、地域住民と話し合いながら「まちづくりルール」として合意形成をおこないました。



造成中の高台移転地見学会



完成間近の高台造成地

住宅再建についての見通しがつくと、今度は地域の産業をいかにして盛り上げるかという話になってきます。やはり景勝地・宮戸では観光振興への取組みが欠かせないと思います。震災前、漁師や海苔養殖をされている方が、オフシーズンとなる夏の時期に自宅を民宿として提供してきました。しかし、今回の

津波で家屋を失い、以前自宅のあった場所は津波危険区域に指定されているので、民宿の再建は難しい状況です。島めぐりの観光船の再開等、以前の観光プログラムも少しずつ復旧に向かっていますが、震災前とは違った取り組み、特に多くの人を呼び込める新たな自然体験プログラムや地場産品提供の仕組み作り、人材育成等のソフト面の充実を考えていかなければなりません。



宮戸島のビーチではシーカヤックや漁業体験が楽しめる

視点を東松島市のお隣、石巻市に向けてみましょう。石巻市は今回の震災の最大の被災地であり、それだけに震災直後から被災地と復興の現状を見てみたい、学んでみたいという人達がたくさん訪れるようになりました。実際に津波被害を経験した現地の人のお話を聞く、いわゆる「語り部」ツアーの需要は、現在も非常に高いものがあります。同市で中心となって活動しているのが、震災前から観光客向けに街歩きガイド等をおこなっていた「観光ボランティアの会」の方々です。他にも既存のまちづくり組織や震災直後から駐在する支援団体等が、それぞれ独自の語り部活動をし、視察者の受入れをおこなっています。被災地域の住民が、語り部活動のため社団法人を立ち上げたケースもあります。

私も震災前は石巻市で自営業（クリーニング店と工場の経営）をしていて、津波による浸水で3日間事務所に閉じ込められ、工場、機械設備、車両すべて失いました。視察受入れに協力し、語り部としてそのような被災体験をお話させて頂いたところ、参加者からは、「津波の怖さや災害に対する備えの大切さがわかった」「報道では伝わらない被災地の現状を知ることができた」などの感想を頂きました。震災を風化させないため、また、防災の大切さを伝えるためにも、今後も積極的に関わって行くつもりです。



石巻市の語り部ツアー

このような動きを「ビジターズ産業(観光を含め、外から人を呼ぶこと)」の柱として定着させるため、各団体の語り部のスキルアップを目指した講習会を開催したり、視察者の受入れ分散をおこなったりする連絡会づくりも始まりました。これまでは語り部の人数が足りなくて、視察受入をお断りするケースもあったようですが、各団体が連携して語り部を確保できれば、修学旅行等大規模な団体の受入も可能となり、それなりの経済効果も期待できます。また、中心市街地の震災前、直後の画像や観光ポイントをGPSと連動して表示してくれるタブレット端末を作っている団体もあり、これをスマートフォン用アプリとして提供してくれる予定です。

石巻市の沿岸被災地の住宅再建については、未だ行政による被災跡地の買取が進んでいない地域も多く、東松島市より遅れています。しかし、被災の激しかった北上川沿いに位置する市街地での復興まちづくりに多くの住民が主体的に関わっていることや、建築家や都市計画の専門家、様々な支援団体が彼らに協力して先進的な取り組みをおこなっている点、そして目ぼしい観光資源はありませんが、地域住民主導でビジターズ産業の振興を推進している点等々、民間のパワーに関しては他の被災地に負けていません。

東松島市の宮戸島で奥松島の絶景や地元の美味しい海の幸を楽しみ、石巻市の中心市街地周辺で震災時の対応や防災について学んだりできる観光パッケージツアーがあったら、みなさん、参加してみたいと思いませんか？一口に観光振興といっても、アプローチが大きく違う両者ですが、現在の自分の活動が、両者を繋ぐお手伝いになり、そんなツアーが実現したら嬉しいですね。



宮戸島 大高森からの眺め



多くの人が献花に訪れる看板は観光スポット

東松島地域復興推進員 四倉 禎一郎

【推進員だよりバックナンバー：JICA東北ホームページ】

<http://www.jica.go.jp/tohoku/enterprise/shinsai/index.html>

以上

JICAは、宮城県、東松島市、宮城大学、東松島まちづくり応援団（NPO）等と共同で「地域復興推進員」を通じた震災復興モデル事業を東松島市で開始しました。このモデル事業では、早期震災復興につながる”市民協働のまちづくり”を支援することを目指しています。ここで得られた教訓や経験を将来の国際協力に繋ぎます。
